

第1章

データ照合、日次レビュー、倉庫間移動… 期中における棚卸資産 管理上の留意点

EY新日本有限責任監査法人
公認会計士

鎌田 光蔵

するための事務処理であるが、当該処理の失念や、誤った日付・数量で処理する等のミスによって、現物の数量と在庫管理システム上の数量に差異が生じることとなる。こうした違算を防ぐ観点から、在庫業務の留意点について述べる。

(1) 発注書・発注データとの照合

まず、倉庫担当が入庫業務を行う際は、購買部門で承認された発注書やデータとの照合を行うことが重要である。発注内容を確認しないで購入業務を行った場合、実際には発注がない(取り消された場合も含む)場合や、対象物品や納品数の誤りがあった際に、棚卸資産の計上を誤っておそれがある。また、実際にエラーが生じやすい場面として、入庫遅れや入庫できない、数量の変更等の事が発生した場合が考えられるが、納品日や数量等の最新情報をタイムリーに倉庫受入担当者へ連携するしくみを構築し、ルール化することも重要である。

ただし、多くの企業では発注管理と在庫管理について、両システムの連携がなされており、発注段階で発注書や自社指定の納品書等が一元的

(この章のエッセンス)

●入庫業務においては、現物と在庫管理システム上の数量の違算を防ぐため、発注書・発注データとの照合、職務分掌の確保が必要である。また、受入検収と入力までのタイムラグの排除、日次レビューが有用である。

●出庫業務においては、現品移動に関するチェック・承認体制の確立や、現品の所在をタイムリーかつ正確に把握する体制が必要だが、現品移動と入力までのタイムラグの排除、システムにおける正確なロケーション情報の保持等が有用である。

●自動倉庫については、期中において循環棚卸を実施し、入出庫の

チェックを实地棚卸と同水準で実施することで、期末における数量の实在性の確認を補強できる可能性がある。

はじめに

期末において实地棚卸を行うまでに、帳簿棚卸によって期中の在庫の受払いをミスなく管理することが重要である。いわゆる継続記録法によって適切に記帳がなされてこそ、实地棚卸において差異を把握した際、なぜ差異が発生したか、管理上の問題点と改善策は何か、適切なロット、リードタイム、在庫水準の把握等のビジネス上のアプローチも可能になってくる。また、近年では

新型コロナウイルス感染症や、不安定な海外情勢の影響により、遠隔地での適切な在庫管理も従来に比べ難しい局面もあるだろう。本章では、期中のさまざまな場面における棚卸資産に関わるリスクや管理上のチェックポイント、システム上の配慮等について述べたい。なお、文中における意見に関する部分は筆者の私見であることをあらかじめ申し添える。

入庫業務の留意点

入庫業務とは、発注した商品・製品・原材料等について、品質や数量過不足等を確認し、受入検収処理し、たうえで、在庫管理システムへ入力を行い、会社の棚卸資産として計上